

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 2 回上越市地域包括支援センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 地域包括支援センターについて（公開）
- (2) すこやかに老いるための市民啓発講座について（公開）

3 開催日時

平成 30 年 11 月 1 日（木）午後 7 時 00 分から 8 時 30 分

4 開催場所

上越市役所木田第 1 庁舎 4 階 401 会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：揚石 義夫、竹内 明美、山田 弘子、入倉 康之、植木 信宏、
馬場 隆信、佐藤 貴規、桑原 正史、青山 隆一、押山 貴光、
加藤 智範、河原畑 尚美、磯部 多津子
- ・ 事務局：健康福祉部 八木部長、高齢者支援課 横田課長、細谷副課長、
廣瀬作業療法士長、佐藤保健師長、坪井主任

8 発言の内容

(1) 地域包括支援センターについて

○平成 29 年度地域包括支援センターの業務実績

揚石会長：養護者と分離した件数は、平成 29 年度で虐待対応した 32 件中何件あったか。

細谷副課長：施設入所が 2 名、短期入所が 1 名、本人入院が 2 名の、計 5 名を分離した。家庭状況や本人の状態から判断して、やむを得ない対応であった。

○平成 30 年度地域包括支援センターの業務実績

青山委員：人口割で地域包括支援センターを再編したところだが、相談件数のバラつきは均一化されたのか。

細谷副課長：人口割で再編を行ったが、それでも 4 千人から 7 千人弱とばらつきは

あるが、相談件数については、ばらつきは昨年度よりも改善しているように感じている。

青山委員：虐待件数に関しても均一化が図られているということか。

細谷副課長：地域ごとのばらつきはあるが、虐待の多い地域は周囲の方々の見守りの意識が高い結果であるにとらえている。虐待が疑わしい段階でも通報するという認識を市民の方から持っていただくよう、今後も周知に力を入れていきたい。

佐藤委員：日常圏域地域ケア会議の上半期の開催数が、昨年度に比べ少ない。今後の見込みはどうなっているのか。

細谷副課長：地域包括支援センターには年間3回の開催を依頼している。昨年度は19あった地域包括支援センターが、今年度は11に減っているため、総数は減る見込みである。地域包括支援センターによっては、細かく地域自治区単位などで開催している所もあるので、33回よりも多く開催されるものと見込んでいる。

竹内副会長：地域では、毎月、町内会長や民生委員・児童委員と会議を行っているが、地域包括支援センターの職員は来たことがない。地域の集まりにも顔を出していただき、話し合える機会があればありがたい。

細谷副課長：11月9日の地域包括支援センター職員研修会において周知する。

馬場委員：民生委員の定例会に地域包括支援センターの職員から参加いただいているが、参加者が固定されている。他の職員からも参加いただきたい。

細谷副課長：あわせて周知する。

○再配置後の地域包括支援センターの業務について

桑原委員：地域包括支援センターごとに実態把握の進捗状況に差があるが、事務局としてはどのように分析しているか。

細谷副課長：年間訪問件数の目安は、市から提示をしている。毎月、実態把握の進捗状況の報告を受けており、各々目標に向けて進捗管理をするよう指導している。

入倉委員：介護支援専門員への支援について、研修会で学んだことを実践に生かした後で、事例対応の振り返りを行う機会があると良いのではないか。

植木委員：地域包括支援センターを知らない町内会長もいるようなので、周知に尽力いただければ、日々の業務がもっとスムーズになるのではないか。

○国から示された地域包括支援センターの評価について

青山委員：評価において、地域包括支援センターは自己評価という形か。

細谷副課長：自己評価となる。

(2) すこやかに老いるための市民啓発講座について

○平成29年度すこやかに老いるための市民啓発講座の実施状況

○平成30年度すこやかに老いるための市民啓発講座の実施状況

○平成31年度すこやかに老いるための市民啓発講座の内容について

- 磯部委員 : 高齢者の自殺が多いとあるが、原因は把握できているのか。
- 細谷副課長 : 県や全国に比べ、上越市の自殺率はかなり高い。うつ病で通院していて発生したり、介護サービスを使う前日に発生したりと、自殺の背景は様々である。実態がどうなのかを市民の皆さんにお伝えして、自分の身の回りでも悩みを抱えている方がいるかもしれないということや、自分や家族のこととしてとらえていただく機会が大事ではないかと考えている。これは高齢者支援課の講座だが、健康づくり推進課では自殺対策に特化した計画を策定している。講座の企画にあたっては、健康づくり推進課の自殺担当と相談をして内容に反映させている。
- 揚石会長 : 参加者を集める工夫がもっとほしい。例えば、50代の方の心に響く話と60代の方の心に響く話とは違うので、どの年代に合わせて話をするのか、ターゲットをある程度絞っても良いのではないか。また、地域性も踏まえた上で、同じ話でもちょっと切り口を変えるような工夫も必要だろう。
- 佐藤委員 : すでに地域で取り組まれている様々な活動に講座の内容を組み込んだらどうか。例えば、地域で行う防災訓練で認知症の方をどう避難させるかという話も盛り込めば、啓発の裾野は広がるのではないか。
- 揚石会長 : とても実際的な話だと思う。他にも、敬老会などのタイミングで30分ほど時間をいただいて話をするのも良いだろう。
- 山田委員 : この啓発講座の講師として2箇所執務した。地域の集会に出向いて講座を行うのも良いのではないか。
- 加藤委員 : 次年度は計画に入っていないが、継続的に転倒・骨折予防の運動ができる機会や場所があると良い。
- 河原畑委員 : 40代、50代の方は、介護する側の世代でもあり、自らの今後のことを考える時期でもあるため、ターゲットにするにはちょうど良い年齢層かもしれない。
- 揚石会長 : 世代が下になればなるほどピンとこないところがあるかもしれないが、次年度が終わりという訳ではないので、フィードバックを繰り返して、より良い形にしていけば良いだろう。
- 青山委員 : 30年度の参加者の年齢別の参加割合はどうなっているのか。また、参加目標人数を1,000人前後に決めた理由は何か。
- 細谷副課長 : 年齢別の参加者状況は、次回の協議会でお示しする。また目標人数は、1会場8人から10人程の参加を想定して設定している。
- 青山委員 : 年齢別の参加者数が分かれば、伝える内容も変わってくるのではないか。歯科医師会としては、次年度の内容に口からの介護予防が入っていないので、32年度にもう一度入れていただくとありがたい。
- 細谷副課長 : 参加者のご意見も聞きながら内容を変更し、次年度は口からの介護予防と転倒予防の内容を盛り込んでいない。いずれも、参加者へのアンケートの中で「介護予防教室で同じことをしている。」という意見が多くあったためであり、介護予防教室へ引き続き参加をいただくという

ことで整理をし、次年度は自殺に関する内容を盛り込んだ。

揚石会長 : 転倒予防や口腔ケアが大切だということが浸透し、他の場所でも学ぶことができるようになったということだろう。市民の方から我が事としてとらえていただけるように、市からの考案というだけではなく、参加者からの話を引き出すような工夫もしていただきたい。

9 問合せ先

健康福祉部高齢者支援課介護指導係 TEL : 025-526-5111 (内線 : 1645、1674)

E-mail : kaigo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。